

あだち まさみ  
安達 正美

## 涙あり笑いあり

●日本郵政グループ労働組合  
(JP労組)・書記長

「わたくし、生まれも育ちも東京葛飾柴又です。帝釈天で産湯を使い、姓は車、名は寅次郎、人呼んで「フーテンの寅」と発します。～」

♪俺がいたんじゃお嫁にゃ行けぬ わかっちゃいるんだ妹よ～♪

もうお気付きですね。渥美清さん主演、山田洋次原作・監督の「男はつらいよ」。

何故、寅さんの口上から始めたかと言うと、海外出張からの時差ボケに悩まされること1週間余り、眠れぬ夜にこの映画を1本、また1本と気付けば時差ボケすら忘れ画面に釘付けに。

私が小学校にあがった1969年の8月に映画第1作が公開され、その後1995年12月公開の第48作まで続き、ファンからのラブコールもあり特別編を含めて全50作となった作品です。1995年という年は阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件など衝撃的な事件が起きた年で、日本郵政グループ（当時は郵政省）ではまだ郵便番号は5ケタの時代でした。

さて、昭和から平成にかけて日本の高度経済成長期を経て、最後まで定職につかず気ままに全国を旅しながらマドンナに恋をし、気まぐれに地元柴又に立寄り騒動を起こす物語。

実家の裏にタコ社長の経営する朝日印刷所があり、寅さんは事あるごとに「労働者諸君！」と自分の境遇と真反対の職人との絡み

が見られる。

定職もなく当時、現場の住み込み寮での団体就労の賑やかな生活もない寅さんは羨ましかったのではという考察もあり、1983年の作品ではオフセット印刷機が導入された事で活版印刷より人手が要らなくなり、徐々に寅さんの恨み節は聴かなくなりました。

興味深いのは寅さんの一言。

「ザマ見ろい人間はね、理屈なんかじゃ動かねえんだよ。」かと思えば、「この家で揉め事があるときは、いつも悪いのはこのオレだよ。でもなあ、さくら、オレはいつも、こう思って帰ってくるんだ。今度帰ったら、今度帰ったら、きっとみんなと仲良く暮らそうって、あんちゃんいつもそう思って。」こんなセリフには涙する。

「青年、女に振られた時は、じっと耐えて、一言も口を利かず、黙って背中を見せて去るのが、男というものじゃないか。」なんて寅さんらしい。

フーテン（※途中で放送禁止用語となる。）と自ら名乗りながら、実は誰よりも自由で柔軟性があり、誰にでもまっすぐになれる人だから愛されたのかもしれない。

ちなみに渥美清さんは俳人としての才能も開花し、「風天（ふうてん）」という名で作品集も出版しています。「さくら幸せにナッテオクレヨ寅次郎」、「赤とんぼじっとしたまま明日どうする」。寅さんを演じながら、寅さんとして作品にしていたのでしょうか。



話を戻して、「男はつらいよ」シリーズに欠かせないものに、寅さんから届いた手紙を囲む心温まるシーンが見処の一つ。ポストや郵便配達のシーンが度々登場し物語のラストでは、寅さんから届く年賀状（夏用はがき）の朗読でエンディングを迎えます。

年賀はがきの発行枚数は、1950年用のものが初めて1億8,000万枚発行され、ピークは2003年の44億5,936万枚。それ以降は多少の起伏を見せながらも漸次枚数は減少し、2024年用の当初発行枚数は14億4,000万枚と大きく減少しています。

寅さんが知ったら嘆くかなあ。

そのはがきの料金は、第一作は7円、その後20円、30円、40円、41円、50円、52円、62円、48作の最終話では50円です。

消費税の引き上げに伴う郵便料金の値上げもありました。

一方、手紙（第1種定型郵便物25g以下）の郵便料金は、総務省令により消費税の導入による値上げを除けば29年間料金を据え置いているのをご存知ですか。昨今の物価上昇、社会保障費や最低賃金等の上昇を踏まえると、郵便法に定められている真に「能率的な経営の下における適正な原価を償い、かつ、適正な利潤を含む」料金となるよう見直しが必要です。

何処にいても、安否を知らせる手紙やはがきは高齢になっても相手から直接気持ちが届くアイテムのひとつです。私ごとですが、今年還暦を迎えてひと昔前なら定年退職の年齢となりました。現代では退職年齢も65歳になり、66歳を祝う「緑寿」というものがあるようで、元々は「緑々寿～ロクロクジュ」で定年退職年齢があがった事で2002年に日本百貨店協会が提唱したことでお祝いされるようになったとのこと。自然環境を守る意味もあり、緑色のアイテムを退職祝に選ぶなんてのも有りですね。

最後に「男はつらいよ」第48作目のラストシーンでは、阪神・淡路大震災直後の被災地で働く労働者を目の当たりに、「本当にみなさん、ご苦労さまでした」と渥美さん最後の台詞となっています。

どんなに今は辛くても、寅さんのような人がどこかで見ていて心の中で労いの言葉をかけてくれているはずです。

早期退職をはじめ、労働者不足が問題視されている昨今。定年を全うして退職するのは幸せで当たり前だった世の中では無くなりましたが、せっかく定職につき一人でも仲間と呼べる人がいるのであれば、グリーンの記念品を貰えるまでとは言いませんが、どこかで労ってくれている人の為に共に頑張りましょ



う！。

結びに、映画のワンシーンをお借りして。

「末筆ながら、あなた様の幸せを遠い他国の空からお祈りしております。」

車 寅次郎 拝